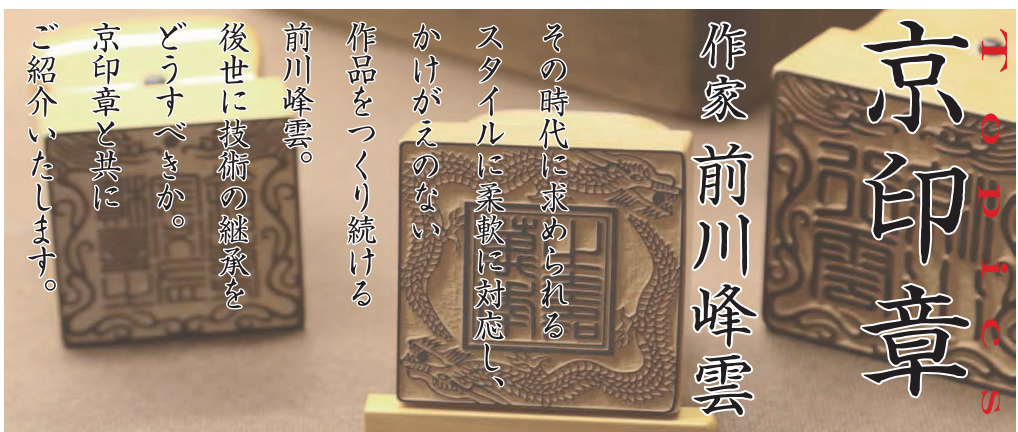




本日は、日本大学校友会京都支部の印章、郵送、印刷等、大変お世話になっております。
前川誠意堂 前川峰雲様を事務局におこし願いました。また、弊社(熊倉工務店)におきましても祖父の吉太良の時代から三代にわ

たり、実印、社印と立派なものも創って頂いており、名刺、年賀状、暑中見舞い等、大変お世話になっております。
その中で、有名な日展の作家という点も注目してインタビューしたいと思っております。

前川誠意堂の歴史は？

前川 創業は、昭和十二年です。元々祖父は印鑑屋ではなかったです。

新選組の屯所、旧八木邸というのが有名ですが、その向かいに旧前川邸というのがございまして、そこが祖父の出身地なんです。

旧前川邸は壬生にあるのですが、当主の前川莊司は六角前川邸というのが御座いまして、そこで掛屋、両替商をしていました。前川莊司が後に先物取引で大失敗し、何から何まで全部取られたと聞いています。当時は御幸町御池に住んでいました。

家系図や肖像画もなにも無い状態でして、祖父からそういう話を聞いているのですが、それが本当なのか嘘なのかわかりませんでした。

新選組がNHKのドラマで放送された時に、新撰組を調べている大学の先生に家系を教えて頂き、その時にわかりました。

であったり、使い方であったり、新しい提案をしていけたら良いかなと思っています。

不安な面は、デジタル化が進んでいますので、全てデジタル化に成ってしまうと、ハンコが追いやられてしまうという所が有るのですが、押した時の安心感であるとか、押した時に美しい綺麗な線が残っていると思ってもらえる様な所を残して



インタビューの様子

前川峰雲氏(創)

Houun Maekawa(sou)

前川誠意堂 三代目

日展作家
謙慎書道会
読売書法会

理事
幹事

昭和49年	京都生まれ
平成4年	花園高校卒業
平成4年	(株)松碩社
平成20年	京都府『明日の名工』受賞
平成22年	京もの認定工芸士
平成23年	京の若手職人技術コンクール 京都府知事・優秀賞受賞
平成24年	大印展 近畿経済産業局長賞受賞
平成25年	日展 初入選
平成26年	全国印章技術競技会 文部科学大臣賞受賞
令和2年	日展入選



生き残りを考えて行かなければと思っております。

今、立派に三代目を継がれていますが、多岐にわたる色々な職種のものを開拓され、我々校友会も協力頂いておりますが、その辺のお考えはどうでしょう？

前川 印鑑屋という仕事を一番に念頭におき、そこから色々出来る仕事を増やして行けたらと思っています。ただ沢山勉強することがありますので、勉強する時間を作っていく必要があります。

前川様自身が、今のお店に帰られたのはいつですか？

前川 二十三歳の時です。高校卒業して、約三年間丁稚奉公へ行っていました。大阪の西成という所で、イメージ通りの商店街にお酒を飲んだ人が寝転がっていて、カルチャーショックを受けたのですが、面白いもので半年もするとすっかり慣れてしまいました。食べるものが安いであるとか、色々な事柄も良いなと思うようになりました。

丁度入社二年目の時、阪神大震災が起きました。会社の上に寮があり、通い社員は出勤出来る者は少なく来れる者だけで必死に仕事をしました。今みたいにハンコが無くて契約ができる時代で

は無いので、家が壊れてハンコが出てこない等、凄く集中して注文が来て一か月ぐらいは皆寝ないで仕事をしていた記憶があります。

前川様はいつ結婚されたのですか？

前川 二十三歳の時に、出会いはサッカーで怪我をして入院していたのですが、その時に妻もスポーツで疲労骨折してしまって、リハビリで少し重なったのがきっかけです。

奥様は、ハンコ屋さんへ嫁ぐという事に抵抗はありましたか？

前川 妻は高校の時から寮生活で、実家にもどってくるのでしたら、結婚してしまった方が御両親も良いとおっしゃられ、その流れで...。ハンコ屋に継ぐという事に抵抗は有りませんでした。

我々とのお付き合いの感触として、どう思われますか？

前川 お付き合いさせて頂いて、色々な所に、こだわりを持ってお話をさせて頂きまして、どこまで出来るかわかりませんが、ご要望に応えられるように、しっかりとお付き合いさせて頂けたらありがたいと思っています。

いざ自分が後を継ぐとなった時に、不安等ありましたか？
前川 父親達が築いてきたものを壊さず、継承して行けるかと言った事です。基本的な事をしっかりと受け継いで現代に合った新しい素材

前川誠意堂は、長男続きで引き継がれているのですか？
前川 祖父は次男です。父親も次男です。私だけ長男です。

長男として生まれ、ご家族から「継なさい」と言う言葉はかけられましたか？

前川 直接「継ぐか？」という話は無かったのですが、何となく小さい頃から大人になって、同じ様な仕事をして行きたいなという気持ちになりました。



隠悪揚善・撥雲尋道

学校等への篆刻等の指導というのは、どうお考えですか？

前川 まず、篆刻という言葉を沢山知ってもらいたいと思います。その中で文字的要素であるとか、絵画的要素、彫刻的要素、色んな芸術的要素があるということを知って頂いて、篆刻：：大きい意味でハンコというものを美しいと感じて頂けるよう、発信していきたいらと思っております。

芸術性のある所にアピールして行ければ、今後の販路というのが出てくると思うのですが、その辺はどうでしょうか？

前川 今までの実用性という面ではなく、芸術性の面から捉えて販路を開拓していくと言う事も必要に成って来ると思うのですが、その

為には、日々自分が努力し、お客様に納得して頂けるような勉強をしていかなければ、と思っております。

ハンコについて、私が最近実感したことが御座いまして、土地売買の契約に際し、役所に関する書類は、今ハンコが要らないという事で、全く実感がわかない。

やはり、大金を支払って売買する時に、実印でしっかりと重みを感じ重大さを認識する事を、「ハンコは要りません省略します。」と、言われ凄く違和感を持ち、感情というのが無い様に感じられました。

篆刻を含めて印鑑という技術・職と言うのを永く守って頂きたいと思っております。

これからの校友会事務局を含め、長年のお付き合いをしていきたいと思っております。

コロナ禍の新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の忙しい中、貴重なお時間とお話頂き大変ありがとうございました。アフターコロナで変わる京都の活性化すべき道筋を模索しつつ協力と強調していく事を確かめ合って本日の取材を終えたく存じます。



株式会社 前川誠意堂

〒604-0933

京都市中京区押小路通御幸町東入山本町406

TEL 075-231-0480 FAX 075-231-0450

E-mail: maekawa@bk2.so-net.ne.jp

営業時間 午前9:30～午後6:00

休業日 土曜日・日曜日・祝祭日



あなたとともに
100万人の仲間とともに

日本大学校友会 京都支部

取材日時： 令和3年7月2日(金) 午前10時
場所： 日本大学校友会 京都支部 事務局
京都市東山区五条橋東五丁目476
株式会社 熊倉工務店 応接室

編集メンバー： 日本大学校友会 京都支部 副支部長
日本大学理工学部校友会 京都支部長
日本大学理工学部1978年卒業

熊 倉 淳

日本大学理工学部校友会 事務局
日本大学生産工学部2012年卒業

熊 倉 毅 一

日本大学校友会 京都支部 事務局
写真撮影

渡 邊 直 樹

その他幹事一同